

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、それを念頭に置いて日々のケアにあたるよう、指導・実践をしている	事業所開設時より「絶望とは思わないで暮らせる社会づくり」を事業所理念として掲げている。事業所はその言葉を事務室に掲げており、管理者・職員は念頭に置いてケアに当たるよう実践していると話している。	管理者・対応職員からは、事業所職員研修や日ごろの話し合いにおいて「理念」に関する話し合いや見直し等を行っていないとの言葉が聞かれた。しかしながら、日々の生活支援の中で、管理者・職員が、利用者がこの地域で、その人らしく暮らせるような支援を行おうと相談しながら支援する姿を感じる。今後は事業所理念の共有とともに、日々のケアについて話すことや会議での言葉や内容を記録に残し、話し合った内容を実践に繋げていけるような取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつきあいがコロナ禍により減少した。感染予防とともに今後は交流できるよう検討中。	コロナ禍以前は事業所近くの地域公民館で定期的に「地域のお茶の間」が開催され、利用者・職員も参加し、自然な形で交流があったとのことである。現在は家族と共に個別の外出、外食など、少しずつ復活してきている。また、共用型デイサービスでは地域の利用者が事業所利用者と共に活動や昼食を楽しんでいる。また三条市からの委託事業で「認知症カフェおひさま喫茶」への参加など、事業所は利用者や地域との交流が図れるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域と自治体との要望について話し合いを行っている。又認知症カフェなど、在宅介護者らに向けた取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にスタッフも参加することで、内容について意見などももらった場合積極的に反映できるようにしている。	コロナ禍は、書面開催でしたが、今年は開催し状況報告などを行っている。運営推進会議には自治会代表や地域包括支援センター職員・家族代表・管理者・職員等々が参加され事業所からの報告に耳を傾けている。	運営推進会議では職員からも一人参加しており、会議の内容を他の職員にも伝え共有に努めている。しかしながら、会議では参加されない家族等の要望や意見をもらう工夫や、終了後の会議報告等が、他家族には報告されていない状況である。今後は会議での報告や検討内容を「お便り」などで他の家族にも周知を努め、意見をもらうことなどで利用者へのサービス向上や質の向上に繋げていくような取り組みが期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時報告・相談・指導などをいただいている。認知症カフェの委託事業を受け、互いに協力し取り組んでいる。	何かあればいつでも市職員・包括支援センター職員等との連絡はとれており、相談できる関係性は図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除く一切の施錠を行わないようにしている。また、拘束とまでいかないが、活動や発言を抑制してしまうようなことが無いが、指導している。	「身体拘束禁止に関するマニュアル」は整備されている。また、「身体拘束をしないための研修」は、それぞれ職員全員がズームで研修を受けることになっているが、各自受けたズーム研修の記録の整備やチェックが行われていない状況である。また、生活支援の記録の中で、「これはどうなのかしら？」などの記録は残されているが、「行動規制」になるのか？「気がつかずにしてしまった」場合の話が出たときにその話し合いの経過などが記録されていない現状がある。新たに始めたばかりの取り組みだが、大切な気づきが始まっており今後期待したいところである。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を職員に伝達、確認してもらい、各自で意識して虐待防止に努める為に事業所内研修も行っている。	虐待防止関連のマニュアルは整備され「高齢者虐待防止法」に関する研修も行っており、それぞれ職員の思いなどが感想として記録されている。フロア会議に挙げるようにしており、その都度職員は、見過ごされることのないように虐待の防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度について職員間での理解も広がってきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・利用契約書については十分な時間をかけて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置とともに、普段から家族が意見や要望を言いやすい環境作りに努めている。現況報告をし、要望があった時は検討し「出来ること」は即実行している。	普段から事業所には意見箱が設置されているが、中々意見は入っていないとの説明があった。そうした中でも「事業所内に段ボールや荷物が積み重なっている。地震や災害考えるとき大丈夫か?と思う」など、利用者家族からの意見があったとの話が聞こえてきた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や個別での面談を行い、定期・不定期に聞く機会を設けている。	管理者は職員からの意見が出やすいようユニット会議や個別の声掛けなどを努めて行っており、風通しの良い職場環境に向けて検討している。同様に管理者は必要な物品の購入検討や法人迄上げるかどうかなど、職員の意見を確認聞きながら検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の目標設定と管理などにより、能力や実績の判定などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については社内での年間計画を基に、内部・外部研修を多く取り組む機会があり、社員のスキルアップを惜しまず会社ぐるみで実施している。又それ以外でも事業所独自の勉強も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に地域内や他の市町村でも、ホームへの見学や研修などの場における交流を進めるように働きかけている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートの活用や家族からの情報収集などで本人が安心して暮らせるように本人本位の支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には細かく、本人、家族を含めて要望等を伺い、悩み等に関して、可能な限り力になれるよう関係性を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が何を必要としているのか細かに聞き取りを行い、他のサービスを取り入れる必要のある時は、家族と話し理解を深めて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決まった人になってはいるが、調理など一緒に取り組んでいる。また、花植えや畑などの手入れにおいては、いろいろ意見を聞いたり、触れ合える機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに現状についての報告や、何かあったときの相談もしながら、利用者本人を共に支えていくようにしている。認知症カフェにも参加してもらい、本音を言える環境を整えている。	日常の暮らしや生活する利用者の状態は職員が把握しており、何か変化があれば、家族の面会時や電話で連絡するように努めている。コロナ禍で家族との関係性が希薄にならないよう通院や買い物などで、また家族との外出時にも、感染予防に配慮しながら継続的な支援を続けている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人を迎え入れる機会が持てるよう努めている。また、馴染みのところへ出かけられる機会を設けている。	家族や友人との関係性が途切れないよう支援に努めており、利用者にとっての思い出の場所や馴染みの場所へ、家族からも協力を仰ぎながら支援している。いつも見に行っていた桜の花見や好きな景色の場所などへ、事業所の車で外出するよう企画を立てるなど、関係性が途切れない「出かける機会」を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同一フロア内だけでなく、フロアを超え、新たに利用者同士に絆が生まれるように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要のある場合はお手紙や電話などによる連絡を行って、継続的なつながりを維持している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族などから、今までの生活歴などの聴取をしたりして、どうしたいか、どうして行きたいかをつねに念頭に置いている。	事業所では入居前に利用者の自宅に訪問するなど、今までの生活の把握や思いの汲み取りに努めている。入所時アセスメントの実施、経過記録・連絡事項や家族からの申し送りなどを記録し、本人の意向把握に丁寧に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの歩みをセンター方式に示し、内的体験に耳を傾け、本人のなじみの暮らしを深く知るように努めている。	利用者や家族、入所前のケアマネジャーなどから、これまでの生活や環境など、また興味があることへの聞き取りを行い情報収集に努めている。利用者にあった馴染みの暮らし方や毎日の生活の過ごし方を聴き取り、事業所での支援に繋げようとしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常について個々に記録して保管しており、申し送りや個別ミーティング、カンファレンスなどを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成段階や作成後にスタッフやご家族との話し合いを行って、必要であれば手直しを加えてサービスの実施をしている。	入居前に家族より多くの情報を得てアセスメントシートに記載され初期プランを1ヶ月を目処に作成している。モニタリングもその都度実施しており本プランを6ヶ月ごとに見直しを行っている。サービス担当者会議には担当者、職員2名等で開催し本人の現状に即した介護計画を作成提供しており家族の同意を得ている。	現在サービス担当者会議は計画作成者と数名の職員のみとなっている。本来は家族・利用者本人の参加も必須である。今後できるだけ参加可能になるよう働きかけを工夫することが期待される。本人・家族の要望等を介護計画書に反映できるよう仕組みづくりを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の作成とスタッフがいつでも見れる場所に置いての情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や通院時の福祉タクシー利用のサポート、看護体制の必要な場合の、訪問看護サービスの併用もやっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源とのつながりが希薄になり、ご家族以外との交流が図れていない。友人の面会がある方もいられるが全員ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の希望に沿った医療が受けられるよう調整し、また協力医との連絡を密に行っている。	本人・家族が希望するかかりつけ医をできるだけ変えずに受診を継続しており、家族による通院介助を基本としている。家族の要望や本人の状況によっては職員が付き添い同行し家族の負担軽減に努めている。また、事業所では協力医による1ヶ月1回の往診と週1回の訪問看護により利用者の健康管理に努めており、看護師とは24時間相談できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を受けられ、24時間体制で電話での相談ができ、適宜連携を図って支援にあてている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や入院医療機関の担当主治医、相談員などとの連携を密にして、相談対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のお看取りについて、家族、医師と現状と今後について話し合い、可能な場合に実施する事ができている。	入居契約時において、事業所の「重度化対応・終末期ケア対応指針」についてを、本人・家族に事業所の方針を説明し家族の理解を得ている。状態変化があったその時はかかりつけ医や事業所の協力医・看護師・職員と相談しながら事業所のできる事できない事をその都度家族に相談説明している。現在、そうした状況の方は居られないが、これまでの看取りの経験を基本に家族の希望に応じて対応していくとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応に戸惑わず準備ができるよう実践力を養っている。	緊急時の対応マニュアルの整備はされており、個別の連絡マニュアルやフローチャートも用意され、解りやすい場所に掲示している。AEDも目に付く入りやすい入口に備えており、いざという時に職員が対応できるようにしている。	事業所では高齢者に想定される主だった症状別のマニュアルの整備が限られており、緊急時の応急手当や初期対応の訓練が行われていない現状がある。またAEDの備えもあるが近年緊急時の操作実習が行われていない状況である。全職員が定期的に訓練を行い実際の場面で活かせる技術と実践力を身に付けることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施を行っている。地域との協力体制について、整備がすすまない状況にある。	火災や地震、水害等災害時のマニュアルに加えBCP(業務継続計画)の義務付けにより策定されている。現在、年2回避難訓練を実施し今回は夜間想定での訓練を実施している。また、災害時の防災用具・備蓄品等の備えは準備されている。	年2回の火災訓練は実施しているが近隣との協力体制が図れていない現状がある。住宅が隣接していることもあり地域住民との取り組みの検討が急がれる。また災害時を想定すると非常口周辺、階段の踊り場、エレベーター周辺等に段ボールや非常食、車椅子等が多く積み上げられ、非常時の妨げとなる危険が想定されるため速やかな改善が求められる。職員目線ではなく利用者や家族の目線での改善が必須である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの内容、タイミング、方法など個別に対応し、記録などについては広げたままなどにしないよう注意を払っている。	個人情報漏洩とプライバシー侵害のマニュアルの整備はされている。職員は利用者への言葉かけ時には特に注意を払っている。トイレ誘導時や食事場面など不適切な会話に気付いた時はお互いに注意し合いプライバシー侵害にならないよう意識を高め合っている。	言葉かけのみならず一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保は尊厳と権利を守る基本である。「共用空間」のテーブル上にファイルや記録紙が占めていたことは情報管理の面から憂慮しなければならない事として職員の意識づけと対策を講じることと振り返りの機会を設け職員意識を高めるための仕組みづくりを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の何気ない言葉を聞き逃さず、できる事は実践している。また、何をすることも本人に意思確認をし柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度1日の流れが入居者の間で決まってしまうところがあるため、その流れも重視しなくてはいけないが、そうでない人への対応もできる限り行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する衣服での過ごし方ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の嗜好の把握とそのつどの食事時の反応などもみつつ、好みの食事に気をつけ、同時に手伝いも限られた方ではあるが、お願いしてしてもらっている。状態に合わせた分担をある程度行っている。	食事は事前に献立は立てず、その日その時に利用者の希望を聞きユニット毎に調理している。和食、洋食とさまざまであるが洋食(パスタや肉料理、ピザ)の希望も多く、材料がない時は買い出しに行ったり旬の物も取り入れながら利用者と共に賑やかな食事場面を大切にして取り組んでいる。食事の準備から片付けまで利用者の多くがそれぞれの役割の中で参加し楽しみの場となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の食事摂取量のチェックと食事内容の改善検討も行っている。水分も状態に合わせて、トロミ、ゼリーなど形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせて食堂脇の洗面所で口腔ケアをしていただいたり、介助も行ったたりしている。口腔ケアティッシュなども活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンについて把握に努め、トイレへの誘導の声掛けなども工夫して行っている。	利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し行動や仕草に注意を払いながら失敗が少なくなるよう支援している。排泄誘導時は周囲に気付かれないよう小さな声で誘導したり、トイレではタオルで覆うなど羞恥心に配慮している。排泄パターンの把握により改善した例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の対応について、医師の意見も取り入れて、改善に努めている。食事や飲み物で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでもという訳にはいかないものの、午前中から夕方までの間で、利用者の希望の入浴時間で言葉かけをしている。	入浴は1週間2回程度を基本としているが時間は決めていないとのことである。共用型のデイサービスもあり、利用者の希望に沿って実施している。入浴を躊躇する利用者には同性介護で実施したり入浴剤を選んでもらったりと無理強いせず本人が気分よく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に捉われず、本人の生活習慣やその時の身体状況を見ながら休息ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、外用薬について内容を職員の身近にファイルしてあり、いつでも確認できるようにしている。また、必要に応じてカンファレンスなどにも取り上げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯もの、食事の準備など、能力に合わせた分担がある程度機能している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑や玄関脇の花壇など、天候や気分に合わせてできる限りの支援をしている。外出レクリエーションだけでなく、家族との外出時にも必要な情報の提供や準備に対応して、気軽に出かけられるように配慮している。	季節や気候にもよるが、天気の良い時は事業所周辺を散歩したり、近くにある自販機まで飲み物を買ったりラーメン屋に行ったりと、気分転換を図っている。また家族との受診外出時には食事をして来たり遠回りやドライブしたりと、できるだけ外出支援が充実する対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個室内で金銭を置くことのできる方は限られており、必要に応じて使用することができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話の機会を持てるようしており、要望に応じた対応が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやいすなども様々な場所に配置し、好きな場所でくつろげるようにしている。	2階は共用型デイサービスも実施しており日々外部から日帰りの利用者が訪れている。入り口は自由に行き来ができるように配慮されている。広い共用空間もこここにソファや腰掛などもあり好きなように過ごせる場となっているが今回の訪問時においては、段ボール等が片付けられずに置かれているなど、心なしか狭く感じられた。利用者からみたら事業所は我が家である。我が家は住まいである。利用者が居心地良くしてもらうことは当然の権利でもある。整理整頓に配慮した環境づくりは事業所の義務なのである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり座れるソファやベッド、手作業の出来るスペースであったり、思いおもいに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りなじみの品物を用意していただくように、入居前から家族には伝えてある。しかしながら、状況や本人の状態から難しいケースもある。	居室にはベット、洗面所、クローゼットが設備されている。入居契約時において自宅で使用していた馴染の生活用品や物品など持ち込み自由としている。家族によっては利用料が発生するものには躊躇もあったりするが、利用者によってはテレビやソファなどを自由に持ち込み小物を飾り付けたりと居心地良く過ごせる居室づくりの支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に環境面に危険はないかチェックするとともに、利用者の活動しやすい環境を整え対応している。		